

北海道における道路景観チェックリスト（案）

～ 計画・設計・建設・維持管理での具体的な景観向上策 ～



2019年 3月

国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所

目 次

～道路線形編～	1
道路線形に起因するさまざまな課題	2
線形① 長大切土のり面をトンネル構造に置き換えが可能か？	2
線形② 長大切土のり面を高架・橋梁構造物に置き換えが可能か？	3
線形③ 長大盛土のり面を高架・橋梁構造物に置き換えが可能か？	3
線形④ 線形の移行により、地形改変を低減することができないか？	4
線形⑤ 上下線分離により、地形改変の低減や眺望の確保が可能か？	4
線形⑥ 擁壁工により、のり面を最小化できないか？	5
線形⑦ 広幅員の中央帯により環境・景観資源の保全が可能か？	5
線形⑧ カーブ外側に切土のり面が配置されていないか？	6
線形⑨ 既存林等を活用した風雪害対策をしているか？	6
線形⑩ 一般原則を準拠しているか？	7
線形⑪ ブロークンバックカーブを回避（平面線形）しているか？	7
線形⑫ 曲線長が短い曲線、曲線半径が小さい曲線を回避しているか？	8
線形⑬ ブロークンバックカーブを回避（縦断線形）しているか？	8
線形⑭ 凹凸のある縦断線形を回避しているか？	9
線形⑮ 平面・縦断線形の位相のずれを回避しているか？	9
線形⑯ カーブ内での凹凸を回避しているか？	10
線形⑰ 景観に地域資源を取入れているか？	10
線形⑱ 山アテとなる道路で、見栄えの良い見込み角度となっているか？	11
線形⑲ 視認時間を考慮した視対象への線形となっているか？	11
線形⑳ コンケーブを活用した良好な線形となっているか？	12
線形㉑ ビューポイントパーキングは、適切な位置・方法で整備されているか？	12
～道路断面編～	13
のり面の設計と運用上の課題	14
断面① のり面を緩勾配化することが出来ないか？	14
断面② 横断方向のラウンディングが可能か？	17
断面③ 縦断方向のラウンディングが可能か？	17
断面④ 吊り柵を遮蔽緑化出来ないか？	18
断面⑤ 歩行者の少ない郊外部に歩道が設置されていないか？	18

断面⑥	擁壁の全体形や表面の見え方、存在感の低減に配慮しているか？	19
断面⑦	道路・歩道の舗装や路面標示が、周辺の景観に対して、必要以上に目立っていないか？	19
断面⑧	道路断面構成は、地域のニーズ、道路の使い方と合致しているか？	20
断面⑨	道路空間の分離は、適切な方法で行われているか？	20
～道路緑化編～		
	道路緑化に起因するさまざまな課題	21
緑化①	適切な樹種選定・配植パターンとなっているか？	22
緑化②	道路附属施設の景観調和が図られているか？	23
緑化③	効果的な緑化が行われているか？	25
緑化④	私有地の景観阻害要因に配慮した緑化が行われているか？	28
緑化⑤	防雪林の造成が可能な箇所はないか？	29
緑化⑥	冬に強い緑化が行われているか？	29
緑化⑦	のり面の樹林化を検討しているか？	30
緑化⑧	必要以上に剪定されていないか？	31
緑化⑨	植樹柵・植樹帯が有効に活用されているか？	34
緑化⑩	植樹柵・植樹帯の新設が可能な箇所はないか？	35
緑化⑪	路肩を活用した緑化が可能な箇所はないか？	35
緑化⑫	支柱が適切に運用・管理されているか？	36
緑化⑬	リサイクル緑化を検討しているか？	37
～道路附属施設編～		
	道路附属施設の設置の際の基本的な考え方	39
	道路附属施設に起因するさまざまな課題	40
防護柵①	防護柵を削減できる区間はないか？	41
防護柵②	短い区間で異なるデザインの防護柵を採用していないか？	42
防護柵③	一定区間で異なる色彩の防護柵を採用していないか？	43
防護柵④	防護柵等の道路附属物は、シンプルなデザインになっているか？	44
固定式視線誘導標①	矢羽根を伸縮式スノーポールで代用できる区間はないか？	44
固定式視線誘導標②	視線誘導施設の過剰はないか？	46
固定式視線誘導標③	同一路線で異なるデザインを採用していないか？	48
防雪柵①	防雪柵を設置しなくても済む方法はないか？	49
防雪柵②	その収納方法で守るべき景観が保全されているか？	49
防雪柵③	防雪林とすべき区間はないか？	51
植栽①	植栽は必要以上に剪定されていないか？	52

道路標識① 標識を設置する位置を変更できないか？	53
道路標識② 標識は必要以上に設置されていないか？	54
道路標識③ 標識を集約出来ないか？	54
道路標識④ 標識のサイズを小さくすることが出来ないか？	55
道路標識⑤ 常設標識に蛍光色が使われていないか？	56
照明① 橋梁の照明を設置する位置を変更できないか？	56
シェブロンマーカ① シェブロンを視線誘導標で代用できる区間はないか？	57
シェブロンマーカ② 短い区間で異なるデザインを採用していないか？	57
シェブロンマーカ③ シェブロン設置位置を集約できないか？	58
クッションドラム① クッションドラムは必要以上に設置されていないか？	58
クッションドラム② クッションドラムを設置しなくても済む方法はないか？	59
電柱・電線① 電柱をセットバックできる区間はないか？	60
電柱・電線② 電柱を片側に集約できる区間はないか？	60
電柱・電線③ 電柱の存在感を緩和できないか？	61
電柱・電線④ 無電柱化は効果的に実施できているか？	61
道路占用物等① バス停や屋外広告物等の道路占用物が目立ち過ぎていないか？	62
～維持管理コスト編～	63
道路の維持管理に起因するさまざまな課題	64
維持コスト縮減① クッションドラムの削減	64
維持コスト縮減② 防護柵の削減	65
維持コスト縮減③ 防護柵の形式変更	65
維持コスト縮減④ 雪崩防止柵の雪降ろし作業の削減	66
維持コスト縮減⑤ 法面の人力除雪作業の削減	66
維持コスト縮減⑥ 道路標識の雪落とし作業の削減	67
維持コスト縮減⑦ トンネル周辺の雪落とし作業の削減	67
維持コスト縮減⑧ 吹き払い式防雪柵下部の除雪作業の削減	68
～その他編～	69
その他① 施工時において、仮設物の過剰な設置など、周囲の景観を阻害していないか？	70
その他② 暫定供用において、暫定形の土工の違和感や不自然な道路構造物の露出があったり、道路標識等の附属物が必要以上に設置されていないか？	70

～海外事例～	71
のり面	72
道路断面構成	73
道路附属施設（防護柵）	73
道路附属施設（視線誘導）	74
道路附属施設（標識類）	74
緑地・管理・安全	75
休憩施設	75
参考資料一覧	76

改訂履歴

平成 22 年 4 月 初版

平成 31 年 3 月 改訂版

■北海道における道路景観チェックリスト(案)の発刊にあたって

これまでの道路整備は、その時々々の要請によって整備され、高度経済成長期には、必要な機能と品質を有する社会資本を大量かつ短期的に整備することが求められてきた。

そのため、標準設計やマニュアルに代表される画一的な設計スタイルが確立され、今日の人工的な道路景観をつくり出している。

また、観光立国として景観の重要性が増す中、公共事業投資の減少をはじめ、コスト縮減や環境保全、ストック適正管理などが求められており、今後、いかにして快適な道路空間を形成していくかが課題となっている。

現在のマニュアル偏重の設計から、各地域特性や現場条件を十分考慮した最適設計へと転換することが必要である。

本書は、道路景観に対する思想や解説を示した「北海道の道路デザインブック(案)」(平成22年4月)の実践編として、道路事業の計画段階から既存道路の維持管理段階における、より具体的な景観改善の手法を示したものである。

今回、「北海道の道路デザインブック(案)」の改定(平成31年3月)や各種研究成果を踏まえ、内容の一部更新・追記等を行い改訂版としてとりまとめている。

本書に記述されている改善手法は、いずれも関係基準や指針に準拠し、比較的取組みやすい内容も多く掲載しており、北海道における道路景観が少しでも改善し、道路空間の質的向上により、地域振興にも貢献できるよう、本書を積極的に活用されたい。

平成31年3月

国立研究開発法人土木研究所
寒地土木研究所 地域景観ユニット